

映像
と
講演

「文化力こそ地域力」

～上三原田歌舞伎舞台が生きるまち・しぶかわに私が注目する理由～

講師：映画監督 野田香里さん



地 芝居 へ

渋川市文化資産発掘・活用事業

ここは渋川

歌舞伎の里

の誘い

いざな

8月6日(土)

午後7時開演

渋川市民会館

入場無料

地芝居
公演



出演：渋川市文化協会歌舞伎部会

(渋川歌舞伎、半田歌舞伎坂東座、赤城歌舞伎、渋川子ども歌舞伎)

一、二、三 さん
番 ば
叟 そう
舞 踊
寺子屋 一 幕

主催：渋川市文化協会

後援：上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会・しぶかわ歌舞伎連絡協議会
協力：特定非営利活動法人ぐんま郷土芸能助っ人塾

〒377-8501 群馬県渋川市石原80
電話：0279-22-2500(教育委員会生涯学習課内)

平成23年度 群馬県文化資産発掘・活用事業

文化力こそ地域力

『上三原田歌舞伎舞台が生きるまち』がわに私が注目する理由

講師 映画監督 野田 香里

私たちの渋川市では、江戸時代から昭和にかけて、あちこちの集落で歌舞伎が行われていました。その中のひとつに約200年前に建造され、国の重要有形民俗文化財に指定されている上三原田歌舞伎舞台があります。

上三原田歌舞伎舞台は建物の素晴らしさだけではなく、それを支える人々による「生きた文化」が今なお集落に息つき、全国の関係者から注目を集めています。こうした「地域力」を支えるものが何なのか、豊富な海外経験を持ち、映画という手法で人々の熱いハートを呼び覚ましてきた野田香里監督に、映像を交えて語っていただきます。

プロフィール

野田香里（のだ・かおり）
東京生まれ。学習院大学卒業。米国サンダーバード国際経営大学院卒業。映画『こんにちは歌舞伎〜竹本清太夫みなかみへ行く』監督。著書『ニューヨークからの採用通知』『平成恋愛事情』他、訳者として人気シリーズ『ハンナ・モンタナ』他を翻訳。現在、操作伝承委員会と共に上三原田歌舞伎舞台の記録及び映画作りの準備を進めている。

三番叟

松村 悠輔

菅原伝授手習鑑

寺子屋

菅原伝授手習鑑 寺子屋
京のはずれで寺子屋を営む武部源蔵は、かつての主君である菅丞相の實子、菅秀才を我が子と偽って匿っていた。ところが、ついに左大臣藤原時平の知るところとなり、時平の家臣、松王丸に菅秀才の首を打つように迫られる。万策尽きた源蔵は、寺子屋に入門したばかりで、とても田舎の子とは思えない容貌をもった小太郎を身代わりにすることを決意し、その首を打ち、松王丸に差し出す。

菅秀才の顔を知っているはずの松王丸は、首実検の結果、確かに菅秀才だと認めて帰っていく。計画の成就に安堵する源蔵のもとに、松王丸が戻ってきて、時平の家来ではあるが丞相の恩に報いるため、菅秀才の身代わりになるよう、我が子を寺子屋に入れたことを打ち明けるのだった。嘆き悲しむ妻、千代をたしなめる松王丸。だが松王丸もついに号泣してしまう。再会を果たす菅秀才とその母、園生の前。我が子の死を覚悟し下に白装束を着込んでいた松王夫妻は、小太郎のなきがらを菅秀才として野辺送りするのであった。

首実検の場面は、源蔵夫妻にとって命がけの偽首、松王丸にとっては我が子が立派に身代わりになったことを見届ける緊迫した見せ場である。

松 王 丸	池田 勝	村 人	高橋 正雄
武 部 源 蔵	高橋 輝光	同	三富 進
春 藤 玄 蕃	竹内 幸吉	同	木暮 好弘
涎 玄 蕃	狩野 義信	捕 手	松村 悠輔
三 助	矢島 徹雄	同	室本 拓郎
百 姓 吾 作	石田 榮内	同	高平 一
御 台 園 生 の 前	星野 利子	菅 才	一場 紅緒
千 代	後藤 恵美子	小 郎	一場 心実
戸 浪	藤川 栄	寺 子	一場 佑衣
		同	高澤 直希
		同	一場 美緒

会場：渋川市民会館 群馬県渋川市渋川2795番地 電話0279-24-2261